

令和4年度 岐阜市障害者総合支援協議会 第3回専門部会 議事要旨

日 時 令和4年8月4日(木) 13:30～15:00
場 所 みんなの森 ぎふメディアコスモス みんなのホール及び Web (Zoom)
出席者 会場 27人(本人・家族10人、知的障害者相談員7人、福祉関係5人、教育関係5人)
Web (Zoom) 77人(本人・家族6人、福祉関係45人、教育関係7人、その他19人)
合計 104人

○テーマ…強度行動障がいの支援について

岐阜市において強度行動障がい児・者の支援を提供できる事業所は不十分な状況であり、支援者の能力向上及び受け入れ先の拡充に取り組んでいる。今回、障がいのある人やその家族、福祉関係者、教育関係者が、強度行動障がいに対する理解を深めることを目的に開催し、講演及びパネルディスカッションを行った。

1. はじめに

- ・岐阜市障害者総合支援協議会の概要
- ・第3回専門部会(講演会)の趣旨について

2. 行動障がいの理解と支援について

- ・講師紹介
- ・講演「ご家族と支援者のための行動障がいの理解と支援」
講師：独立行政法人国立重度知的障害者総合施設 のぞみの園 内山聡至様
資料：行動障がいの理解と支援

・パネルディスカッション

司会進行：岐阜市基幹相談支援サテライトふなぶせ南 内堀様

パネリスト：独立行政法人国立重度知的障害者総合施設 のぞみの園 内山様

岐阜市障害者総合支援協議会会長、国立大学法人岐阜大学 名誉教授 池谷様

岐阜市基幹相談支援サテライトクロス 主任相談支援専門員 絹谷様

障害者総合生活支援センタークロス 主任相談支援専門員 源内様

<内容>

- ・問題行動が悪化した場合、家族や支援者はどのような視点で支援すると良いか。
→まずは当事者のことを十分に知り、当事者にとって不快な刺激を軽減し、情報を整理して理解しやすい方法で伝えることが必要。問題行動をなくす視点のみではなく、生活を豊かにする視点を持つことが、結果的に問題行動の軽減につながる。
→支援者視点での問題行動は、当事者の困っている状況かもしれない。適切に感情表現できないことが行動障がいとして表れることがあることを理解する必要がある。
→行動の背景を探ることや、当事者の調子が良い時にかかわり、信頼関係を築くことも大切。

- ・行動障がい予防する上で、早期から当事者に適したコミュニケーション方法を身に付けられるようにするために、大切なことは何か。
 - 1日の活動を記録し、当事者の良い点を支援者が知り、良い点を伸ばす支援ができると良い。家族とも情報共有して支援できると良い。
 - 他機関とも相談し、客観的なアセスメントを積み重ねて、支援に活かせると良い。
 - 問題行動を起こす当事者は困っている状況にあり、一方的な支援が負担になっている可能性もある。双方向のコミュニケーションを大切にし、当事者を十分に理解し、敬意を持って関係性構築に努められると良い。
 - 一担当者や部署で支援をしていると、一つの視点のみにとらわれてしまうことがあるため、他の支援者との議論により、客観的な視点を取り入れることも大切。

4. 当日の様子



5. アンケートの結果

①本日の講演会について

- ・良かった … 63.3%
- ・概ね良かった … 36.7%
- ・普通 … 0.0%
- ・あまり良くなかった … 0.0%
- ・良くなかった … 0.0%

②本日の講演会について（複数回答可）

- ・行動障がい（児・者）の特徴について理解が深められた … 65.0%
- ・行動障がい（児・者）の支援について理解が深められた … 80.0%
- ・実際に家庭や支援の場で活用できると感じた … 43.3%
- ・その他 … 1.7%

③本日の講演会の中で特に参考になったことがあれば教えてください（自由記載）

- ・本人に敬意を持つこと
- ・行動障がい背景に注意を払うこと（冰山モデル）
- ・自身の支援の見直しの必要性
- ・まずは当事者を十分に理解することの大切さ
- ・当事者の良い点を伸ばすこと
- ・一方的な支援ではなく、当事者と時間を共有するという感覚
- ・当事者が良い状態のときに時間を共有し関係性を構築できると良いということ
- ・当事者は「困った人」ではなく、「困っている人」だという考え方
- ・支援者一人で抱え込まず、情報共有することの大切さ
- ・多職種での情報共有と連携の大切さ
- ・記録の必要性
- ・P D C Aサイクルを意識した支援
- ・構造化した支援の一例
- ・I C Fを活用した情報整理や共有
- ・I C Tの活用

④もう少し聞きたかった内容がありましたら、記載してください（自由記載）

- ・具体的な事例（アセスメント、他機関との連携、支援の方法）
- ・幼少期から支援した事例
- ・18歳未満の事例
- ・冰山モデルにおいて真のニーズをどのように抽出するか
- ・支援チームの構成や作り方
- ・居住支援のあり方

⑤本日の講演会に出席されて、具体的な相談をしたいと思われませんか

- ・相談したい … 45.8%
- ・既に相談できる人がいる … 33.3%
- ・相談したくても、相談先が分からない … 2.1%
- ・相談しようと思わない … 6.3%
- ・その他 … 12.5%

⑥ご意見があれば教えてください（自由記載）

- ・大変勉強になった。
- ・わかりやすかった。
- ・とても参考になる講演だったのでオンライン参加者にも資料配布があると良かった。
- ・実際にあった支援事例を知りたい。
- ・事例検討会をしてほしい。
- ・支援級の先生や放課後等デイサービスの職員さんにも理解を深めてほしい。

- ・パネリストの情熱を感じた。
- ・パネルディスカッションの時間がもう少し長いと良かった。
- ・今後も、研修等に参加して学んでいきたい。
- ・医療、福祉、教育関係者との連携がもっと必要。
- ・ICFを重視するような法改正が必要。
- ・子どもの利用している事業所の職員さんにも今日の話聞いて頂きたかった。
- ・特性を理解し、当事者や家族に敬意を持つという視点が印象的だった。
- ・生活の質の向上を目指し共に生きるという視点は、支援者自身にも新たな発見があるだろうと思った。
- ・当事者をよく理解し、行動障がい落ち着いている時こそ関わる視点到共感した。
- ・行動障がいのある子どもに振り回され、家族が疲弊することがあるため、協力機関が増えていくと良い。
- ・高齢者の支援を長くしていたが、それとは違った難しさを感じる。